

## 鬼首地熱発電所設備更新計画 環境影響評価準備書に係る答申（案）

## 1 全般的事項

- (1) 地熱は持続性や安定性で優れた再生可能エネルギーであるものの、対象事業実施区域は栗駒国定公園（第一種特別地域）内に存在し、希少な動植物も生息する地域である。また、当該区域を含めた周辺地域には温泉等の観光資源が多いことから、事業の実施に当たっては、準備書に記載された環境保全措置の確実な実施に加えて、環境影響のより一層の回避・低減に努めること。
- (2) 環境保全措置に係る環境監視を適切に実施するとともに、必要に応じて、追加的な環境保全措置を講じること。また、これらの結果等の公表に努めること。
- (3) 対象事業実施区域周辺の地域住民、地元自治体及び関係者に対して、環境影響に関する情報を積極的に提供するとともに、理解を得ながら事業を進めること。

## 2 個別的事項

## (1) 騒音・振動

イ 対象事業実施区域周辺は、山間地域に位置し、住民が窓を開けて生活する環境と考えられるため、都市部の幹線道路を想定して定められている幹線交通を担う道路に近接する空間における基準値を当てはめることは、過小な評価と考えられる。このことから、評価手法について再度検討した上で、評価書を作成すること。

ロ 工事の実施に伴う騒音の予測結果について、環境基準は満たしているものの、現況値との差が大きく近隣住居への影響が大きいと考えられることから、適切な環境保全措置を実施し、環境影響のより一層の低減に努めること。

## (2) 植物

対象事業実施区域は栗駒国定公園内であることから、発電所敷地内の既造成地については、積極的な緑化を実施すること。

なお、緑化に際しては、外部からの植物種苗の導入のない手法を用いて施工し、現地に自生しない植物種の移入や、自生する植物種における他地域からの個体の移入による遺伝的攪乱を防ぐ対策を実施すること。

## (3) 植物

植物の重要な群落は、群落の成立要件として地形的な特異性があり、近傍を改変することで生育環境に重大な影響を与える可能性があることから、群落の成立要件を含めて調査、予測し、重大な影響の有無について評価した上で、方法書を作成すること。

#### (4) 景観

イ 風車の稼働による誘目性を考慮し、眺望点からの視野角が1度以下であっても、複合的視点から眺望点の重要性を検討した上で調査、予測し、重大な影響の有無について評価した上で、方法書を作成すること。

ロ 発電所本館及び冷却塔の色彩については、できる限り彩度を落とした色や無彩色などの目立たない色の採用を実施すること。

#### (5) 温室効果ガス

事業の実施に伴い排出する二酸化炭素について、建設、稼働、補充井、撤去などの項目別に算出根拠とともに内訳を明確にすること。